

骨粗鬆症の診断と治療

診断

検査を行い、結果をもとに医師が診断します。

〈骨粗鬆症の主な検査方法〉 ※検査の種類は病院によって異なります。

● 問診

病歴や生活習慣などを問診します。

● 画像診断

背骨のエックス線写真を撮り、脆弱性骨折や変形の有無を確認します。

● 血液・尿検査

尿や血液から「骨代謝マーカー」を測定し、骨の代謝状態を調べます。また、骨粗鬆症に似た病気との鑑別を行います。

● 骨量検査

DXA法、MD法などの検査により、骨密度を測定します。



診断



エックス線写真



DXA法

治療

お薬が治療の中心となります。

骨粗鬆症と診断された場合は、生活習慣の改善と同時に、お薬による治療を開始します。治療薬には、「骨の吸収を抑える薬」と「骨の形成を助ける薬」があります。

〈主な治療薬〉

- ・ビスフォスフォネート薬
- ・女性ホルモン薬
- ・活性型ビタミンD₃薬
- ・カルシウム薬
- ・副甲状腺ホルモン薬 など

※患者さんの状態にあわせて、いくつかの薬剤が組み合わされて処方されることもあります。



骨粗鬆症の治療期間は長期にわたる場合が多いため、食事療法や運動療法と併せ、しっかりとお薬を飲み続けましょう。また、骨粗鬆症の介護患者さんにおいても、おむつ交換時や入浴時の骨折が多いことから、治療を継続することが重要です。